

《 工房に朗報!顧客への提案力が加速する2機種 of ドライバーヘッド 》



『GT D-617』(SLE適合モデル)  
ロフト(度):8.5、9.5、10.5、11.5

# GT D-617/QUELOT Aerial 168

— ジオテックゴルフコンポーネント —

ブース:D36

お問い合わせ:TEL 0120-168-188 www.geotechgolf.com

工房必見!自由自在に  
試打クラブが作れる『GT  
D-617』新登場

クラブパーツ市場に一石を投じるニューモデルが発売された。それがジオテックゴルフコンポーネントの『GT D-617』(SLE適合モデル)と『同αスペック』(高反発モデル)のドライバーヘッドだ。

なぜ一石を投じるかといえば、いわゆるカチャカチャ、アダプター機能搭載なので、工房は今までのようにたくさんの試打クラブを作る必要がない。ヘッド1個で様々なシャフトを装着して試打クラブが作れる。少ない投資で顧客へのサービスが向上する点は、工房にとって朗報だろう。



『GT D-617 αスペック』(高反発モデル)  
ロフト(度):9.5、10.5、11.5

それだけではない。アダプター機能を使ってライ角、ロフト角も調整できるし、ソールに装着されたウエイトスクリューを変更すれば、ヘッド重量も変えられる。一つのヘッドでタイプの違う様々なゴルフファーヘッフィッティングできるというわけだ。

「今までは一つのヘッドに様々な重量帯のシャフトを装着していました。40gと70gのシャフトを同じ重量のヘッドで組んでいたのですが、個々のゴルフファーに合ったベストマッチングを提案

仕切れなかったというのが現状です。

その課題を解決するために、『GT D-617』はウエイトを12g(標準)、8g、4gと3つのタイプを持たせることで196〜188g(高反発モデルは193〜185g)と幅広い重量を一つのヘッドで実現したのです。豊富なロフト設定と相まって例えば、非力なシニア向けなら188gに軽量シャフトを装着して総重量を軽くできます。ヘッドが軽いので長尺で



『クロット エアリアル 168』(SLE適合モデル)  
ロフト(度):10.5、11.5、13.5

適正なバランスに組み上げることが可能なわけです。また、アスリート向けには196gで重量シャフトを装着するなど、対象者によってヘッドとシャフトのベストマッチングが図れるのです。(営業部の高坂尚文氏)

以上のように工房にとつては大きなビジネスツールになりそうなモデルだが、調整機能だけではなく肝心な性能にも進化を見せている。

「つつかまり系直進ドライバー」

と銘打ち、直進性の高い低スピで飛ばせるヘッドに仕上げられています。スピンの低減と短い重心の確保でスライスが抑制できるとともに、操作性もよくなっています。短重心の方がシャフトの違いが分かりやすいので、工房がお客様へ提案しやすい商材だと思えます。(高坂氏)

このヘッドは歴代の『GTシリーズ』で最高の初速を実現しているということ、その飛距離性能は折り紙付き。調整機能

と基本性能の確かさで、工房ビジネスを支援しそうなニューモデルの誕生といえるだろう。

**ヘッド重量168gの『クロットエアリアル168』に適合品をラインアップ**

一つ、同社の今春の目玉商品も商品を挙げるなら『クロットエアリアル168 SLE』ドライバーだ。これは昨年、168gと超軽量で話題を呼んだ高反発モデルの適合バージョン。市場から「とにかく飛ばす。しかし、高反発は使いたくないので適合品を作ってほしい」という声にこたえたものだ。

特徴は、何ととっても軽量であること。4年の歳月を経て極限までヘッドの軽量化を図った。一般的なヘッドに比べて約24g(12・5%)の軽量化を実現したという。

軽量ヘッドを使えば総重量が軽くなり長尺でも振り切れるということから、同モデルは標準シャフトにフジクラの29・5gという超軽量シャフト『ゼロスビーダー』を装着46・5インチ、228gという従来にない軽量



『クロット エアリアル 168 αスペック』(高反発モデル)  
ロフト(度):10.5、11.5、13.5

ドライバーを作り上げた。その結果、同社のロボットテストではヘッドスピードに関わらず、同社従来品にくらべて平均で4・89%も数値がアップ、10ヤード以上の飛距離増を達成したという。

以上、『クロットエアリアル168 SLE』ドライバーの性能に触れたが、ここで感じるのは、工房にとって顧客への提案力が増しそうなクラブであるということだ。なぜなら、軽さや長さ、そしてスイング速度の速さがある。そして体感できるので、他のクラ

ブとは明らかに違うということを示せる。新作を打つても、「従来のクラブと何が違うのか」と首をひねるゴルファーが多い中、軽さと長さはその違いを一番実感できるファクターだ。

仮に、顧客が軽すぎると感じた場合は、シャフトを50gや60gと重いモデルに変更しても、ヘッド自体が軽いのでヘッドスピードの速さは実感できる。どんなタイプのゴルファーに対しても、色んな角度から提案できる商材として、今後の市場でも注目を浴びそうだ。